

2022年1月1日以降の実績

1号機

現時点での特記事項なし

2号機

現時点での特記事項なし

3号機

・3号機原子炉注水量低減(STEP2)の試運用として11月10日より、炉心スプレイ系および給水系にて、それぞれ注水量1.7m³/hの単独注水を継続実施し、原子炉圧力容器底部温度、原子炉格納容器温度および原子炉格納容器ガス管理設備のダスト濃度を監視し、安全上、問題が無いことを確認した。

これに伴い、1月6日より試運用を終了し、本運用を開始。

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

現時点での特記事項なし

6号機

現時点での特記事項なし

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4、H6エアータンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

・1月6日午前11時40分、運転中の増設多核種除去設備(C)の高性能容器の排気ラインに設置している連続ダストモニタにおいて、放射能濃度高警報が、午前10時50分から午前11時3分の間、発生していたことをWEBカメラの映像にて確認。

このため、運転中の増設多核種除去設備(C)を午前11時56分循環待機とした。

なお、建屋内のエアモニタの警報は発生していない。

また、同時間帯でスラリー排出していないことを確認している。

ダストモニタのろ紙の放射能測定を実施したところ放射能高警報レベルの放射能濃度は検出されていない。

また、ダストモニタのデータを確認したところ、ろ紙送り直後のみ指示値が上昇していることから、ダストモニタの異常と判断した。

以上のことから、ダストモニタの交換を実施した。

今後、準備が整い次第、増設多核種除去設備(C)の運転を再開する。

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンクG 1月1日午前10時1分～午後3時45分。排水量854m³
- ・一時貯水タンクH 1月2日午前10時48分～午後4時11分。排水量805m³
- ・一時貯水タンクJ 1月3日午前10時39分～午後3時14分。排水量683m³
- ・一時貯水タンクK 1月4日午前9時54分～午後1時23分。排水量518m³
- ・一時貯水タンクC 1月5日午前10時16分～午後1時37分。排水量499m³
- ・一時貯水タンクD 1月6日午前11時38分～午後2時49分。排水量475m³
- ・一時貯水タンクE 1月7日午前10時14分～午後1時24分。排水量469m³
- ・一時貯水タンクF 1月8日午前10時18分～午後1時19分。排水量449m³
- ・一時貯水タンクG 1月9日午前10時23分～午後1時19分。排水量437m³

- ・一時貯水タンクH 1月10日午前9時53分～午後0時44分。排水量423m³
- ・一時貯水タンクJ 1月11日午前10時12分～午後0時59分。排水量415m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ3 1月6日午前10時28分～午後5時56分。排水量2,044m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

現時点での特記事項なし

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

- ・1月6日午後0時48分頃、H4タンクエリアで作業していた協力企業作業員に顔面汚染が確認されたことから、内部取り込みのおそれがあると判断した。
 - ・内部取込の可能性の判断時刻:午後0時48分
 - ・作業件名:H4タンクエリア雨水タンクカバー修理
 - ・汚染状況:鼻腔内の汚染検査で汚染検出(B.G.約150cpm)
 - ・約1,200cpm

・汚染箇所:鼻周辺

当該作業員については、午後1時58分、除染により退域基準(4Bq/cm²)未滿を滿足したため、管理対象区域を退域している。

また、入退域管理棟救急医療室の医師による問診により異常なしと診断され、午後4時4分、入退域管理棟救急医療室を退室した。

なお、鼻腔内を採取した試料の分析結果から内部被ばく線量を評価した結果、記録レベル未滿であることを確認した。